

海難救助出動状況と 主な出動事案の概要

Salvage activity and
Main Outline of case



昨年1月～11月までの海難救助出動は356件に達し、375人130隻の救助に関わりました。出動した救助船は延べ2,124隻、出動した救難所員は延べ6,586人です。

これを昨年同期と比較すると、出動件数では3件増加し、人名救助者数で85人、救助船舶で18隻の減となりました。また、出動した救助船は延べ35隻の増、出動救助員は延べ798人の減となっています。

海難救助出動報告書は船舶事故と人身事故を区別して提出していただいています。水難救済会ではボードセーリング、水上オートバイの事故については、出動報告書の様式で人身事故として取り扱っていますが、船舶事故の報告書に記載されてくるものもかなり見受けられますので、間違いのないようお願いいたします。また、ボードセーリング、手漕ぎボートは報告書の様式に載っていないため、救難所によって取り扱いがまちまちですが、法令上小型船舶として取り扱われていない船外機もついていないようなボートの事故は、人身事故に分類しております。したがって、ボードセーリングの場合、ボートの型によって人身事故に分類されるものと、船舶事故に分類されるものがあります。

また、船舶での落水、負傷、病気については昨年の1月号でも説明しましたとおり、乗船者が1人の場合は、船舶事故に分類し、2人以上の場合は人身事故に分類しています。つまり、事故に遭った船舶が操船可能な状態であるかどうかによって扱いが変わります。

出動報告書の作成にあたりもう一点お願いしたいことは、救助活動や事故現場の写真があれば添付して頂きたいことです。救助活動中は写真を撮るような余裕などなかったり、夜間の出動だったりしてなかなか写真にならない場合が多いと思いますが、気にかけておいて頂きたいと思えます。

以下に7月以降に報告のあったものの中からいくつか救助出動事例を紹介します。

北海道余市救難所

平成十九年六月六日午前十時頃、磯回りの漁業に従事していた救難所所属の漁船が航行中、無人で漂流している漁船を発見、反転してみると海中に転落した乗員がいる。救助船を近づけたがなかなか引き揚げられないので大声で僚船を呼んだが聞こえないため、結局一人で苦労の末船内に引き揚げて収容した。

遭難者は、オレンジベストを着用していたため怪我もなく元気だった。転覆船を曳航しながら関係先に連絡をとり、帰港。

千葉県勝山救難所

平成十九年五月二十七日午後一時四十分頃、鋸南町海岸沖の南約二キロ付近で水上バイクに曳航されていたゴムボートが転覆、乗っていた男性二名が海中に投げ出された。二名とも救命胴衣を着用しており、一名は救助されたが他の一名の

救命胴衣がはずれ行方不明となった。

町役場から出動要請を受けた救難所は、北東の風が強く吹いており急を要すると判断、直ちに救助出動を発令、救助員を招集して救助船で捜索に向かった。懸命な捜索活動にもかかわらず当日は発見することができず、夕刻になりこの日の捜索活動を一旦終了。

翌日から二日間、ダイバーを投入して再び捜索活動を行ったが発見することができなかった。



千葉県勝山救難所員による潜水捜索

北海道砂原救難所

平成十九年七月七日午前四時三十分頃、帰港途中の救難所所属漁船二隻が転覆船を発見、浮玉にしがみついている遭難者一名を救助、応援に駆けつけた他の救助船一隻も加わり、転覆した船の船腹に這い上がり救助を求めている他の二名を救助すると共に救難所に通報した。

救助された三名は一隻の救助船に移乗させ寄港。

通報を受けた救難所では直ちに二隻の救助船を現場に向かわせ、遭難船を転覆状態のまま曳航して港内で復元、更に二隻の救助船を派遣し流出油の処理を行った。

能登水難救済会珠洲救難所

平成十九年八月八日午後二時五十五分頃、能登海上保安署から一一八番通報された海難事故の出動要請を受けた。

救難所長と救助員一名が付近に係留し

であった救助船で直ちに現場海域に向け出動、ビート板状の板にしがみつき手を振って救助を求めている二名を発見、慎重に接近して救助した。

遭難者は、遊泳中に一名が沖に流され戻れなくなったため、他の一名が救助に向かったものの、二名とも離岸流に巻き込まれ、どんどん沖に流され戻れなくなったもの。

三重県鳥羽・伊勢地区海難救助連絡協議会

平成十九年七月三十日午前六時二十分頃、操業中の漁船に落雷があった。近くで操業中の救難所所属漁船が煙の上があった被雷船に気づき、直ちに急行、右手のひらにやけどと裂傷を負い右半身も麻痺した状態で救助を求めている乗員を発見、救助船に乗せ換え消防署と救難所に連絡して帰港し、救急車に引き継いだ。

雷は、漁船の無線用アンテナに落ち、アンテナ線等を通じてクラッチハンドル

海難救助出動状況と 主な出動事案の概要

を操作中の乗員の体に入った模様。

救難所では、救助船三隻を現場に急行させ遭難船を港まで曳航した。

福岡県玄界島救難所

平成十九年八月十一日午後七時三十五分頃、福岡海上保安部から救難所長の元に、「玄界島南東約五〇〇メートル付近でプレジャーボートが機関脱落と浸水の事故を起こしている模様」との連絡が入った。

救難所は、直ちに救助員を招集し、船二隻を用船して現場海域に向かった。現場海域はすでに暗くなっていたが遭難船のものと思われる光を発見、急行したところ転覆船の船首部船底にしがみついている二名を発見し救助した。

遭難者は漁港に搬送し、船体は流失防止のロープをとり、到着した巡視船に引き渡した。

神奈川県小田原救難所

平成十九年八月十六日午前十時三十分頃、クルーザーヨット（乗員八名）において病人が発生、一一九番通報を受けた消防本部から湘南海上保安署に出動要請がなされたが、現場付近に巡視船や警察等の船がいなく、病状は急を要するため、海上保安署から現場に近い救難所に出動要請があった。

救難所では、救助船に消防の救急隊員二名を同乗させ出動、沖で会合したヨットから病人を引き取り、搬送して陸で待機していた救急隊に引き継いだ。

その後、再度出港し航路に不案内なヨットを安全にマリーナまで誘導、三機関が連携して救助活動を成功させた。

愛知県伊勢湾東部地区 海難救助連絡協議会

平成十九年九月一日午後十二時三十分頃、遊漁を終え帰航中の三人乗りミニボート

が港外で波しぶきを受け転覆、三人が海中に投げ出された。

助けを求める叫び声を防波堤上の釣り人が聞きつけ、近くに居合わせた救難所員に連絡した。

自己所有船の様子を見に来ていた救難所員は、直ちに友人一名と救助船で出動し、夜間のため遭難者に激突しないよう、声を頼りに慎重に接近して三名を無事救助した。

宮城県階上救難所

平成十九年八月九日午前〇時九分頃、気仙沼海上保安署から救難所長に「漁船が座礁し機関室付近に浸水があり、乗員七名が救命筏で船を脱出、筏を座礁した船に係留させ救助を待っている。」との出動要請があった。

救難所では直ちに救難所員三名を救助船に乗せて出動した。

現場は、夜間で濃霧による視界不良のうえ暗岩が多数点在しているため、接近に困難を極めたが、巡視艇と連携して救

命筏への接近に成功、安全な場所まで曳航して巡視艇に引き渡した。

熊本県五和救難所

平成十九年十月四日午後四時三十分頃、沖合一〇〇メートル付近に停泊していたプレジャーボートにイルカウオッチング船の船首部が衝突、プレジャーボートは船体に穴があき、機関室に浸水し航行不能となった。

午後五時三〇分、漁協から出動要請を受けた救難所では所長以下二七名で救助活動を開始、救助船によりプレジャーボートを漁港まで曳航して係留、燃料タンクから軽油を抜き取り、中和剤を散布して流出油の処理を行った。

島根県出雲救難所佐香支所

平成十九年九月八日午後八時二十五分頃、釣りに出かけたまま帰宅しない男性がいる

との情報が消防署から入った。また、家族からも正式に救難所に捜索の要請があった。

行方不明となっている男性は、午前中に釣りに出掛けたが、漁港付近に車が駐車されたままとなっており、クレーボックスと釣り道具の入ったリュックが波打ち際に漂っていたことから海難事故に遭ったものと判断、海上保安部、消防署、警察、消防団等と共に捜索活動を行った。

救難所では、当日から三日間にわたり救助船延べ十八隻、救助員延べ二十三名を出動させ、箱眼鏡や素潜りも併用して捜索したが発見できなかった。



救助したプレジャーボートの接岸準備



素潜りによる捜索